



開町20年を迎えて

八雲町長 岩村 克 詔



記録的な猛暑となった夏が終わり、朝夕は風が冷たく、日ごとに秋が深まってきておりますが、町民皆さまにおかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げますとともに、日頃より町政に対し深いご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

平成17年、隣町であるとはいえ、気候や風土、歴史が異なる旧熊石町と旧八雲町が合併し、太平洋と日本海二つの海をもつ唯一無二の町として、新八雲町が誕生しました。合併を決断した旧八雲町の山内町長、旧熊石町の藤村町長をはじめ、合併協議会に関わった各界の皆さまによる真剣な議論、また、各種団体の一体化や連携強化に向けお力添えをいただいたことなど、この一大事業を成すためにご尽力賜りました皆さまに深甚なる敬意と感謝を表したいと存じます。

さて、八雲町は少子高齢化による人口減少やライフスタイルの多様化への対応など、まだまだ多くの課題がありますが、私は、将来にわたって町民が夢と希望を持って安心して暮らせる地域社会と、活気あふれる町を目指し、人口減少のスピードを少しでも緩めるためには、産業の活性化と働く場所をつくることが重要と考え、道南初の研修牧場「青年舎大関牧場」や「北海道二海サーモンプロジェクト」に取り組んでまいりました。

また、醸造用ぶどうの栽培は、地域おこし協力隊の努力によってワインを生産できるまでになり、今後、八雲産ワイン醸造に向けたワイナリーの建設が楽しみであります。さらに、ウイスキー蒸留所の誘致は、蒸留所の建設および事業展開に向け進んでいるところであります。北海道新幹線札幌延伸は2038年度まで延期となりましたが、こうした八雲町の魅力ある資

源を最大限に活かした、駅周辺整備や観光振興が大いに期待されるところでございます。

早いもので、私が町長に就任してから12年が経過しようとしておりますが、町政の舵取り役としての重責を担い、これまで各種施策を推進することができましたことは、町民皆さまの力強いご支援とご協力によるものと改めて深く感謝申し上げる次第でございます。

先を見通すことが難しく、不安定な時代ではあります。が、先人、先輩の方々が築き上げてきたこの八雲町を、次の世代に「魅力的なふるさと」として手渡すため、そして産業・経済・ひとが活発で笑顔あふれる町の実現のため、町政に対する一層のお力添えをお願い申し上げます。ともに、町民皆さまのご健勝を祈念し、開町20年となる節目の年にあたったこの挨拶いたします。

大河原 毅 様の功績を顕彰 -八雲町名誉町民に-

八雲町開町20年記念式典に合わせて、長年にわたり八雲町に対する深い愛情と情熱をもって、食と観光を中心とした産業振興への多大な貢献およびまちづくりに対する数々の功績を称え、八雲町名誉町民条例に基づき、このたびその称号を大河原毅様に贈呈させていただきました。

大河原様は、昭和63年、八雲町に食と農の実験農場KFCプランテーション「ハーベスター八雲」をオープン。「日本の農業文化の再生」「食の安全・安心」を目的に、地元住民と連携して、安全で質の高い食材の改良、新種鶏の研究、有機低農薬野菜開発などに取り組みました。



おおかわら たけし
大河原 毅 氏
株式会社デルソーレ
代表取締役 CEO
昭和18年9月5日生
神奈川県出身

特に、ハーブ飼料が生物の健康な育成に寄与するとし、「国産ハーブ鶏」を誕生させたほか、健康な野菜づくりのため「八雲野菜グループ協議会」を設立し、町内の農家と連携して地場農業の活性化に貢献されました。

また、平成14年に道立公園と「ハーベスター八雲」の機能を生かした「町おこし懇話会」を設立、八雲SAと「ハーベスター八雲」の一体的な利用による相乗効果が期待され、平成18年の道立広域公園「噴火湾パノラマパーク」の開場につながりました。

さらに、都市部での八雲町の魅力発信や上智大学との連携協定による事業展開など、幅広い分野において八雲町のまちづくりに大きく貢献されました。